

令和7年度  
業務年報



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

自 令和7年4月1日  
至 令和8年3月31日

 日本赤十字社 島根県支部  
Japanese Red Cross Society

## 日本赤十字社の使命

わたしたちは、  
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、  
いかなる状況下でも、  
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

## わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

## わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、  
人道の実現のために、  
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、  
人の痛みや苦しみに目を向け、  
常に想像力をもって行動します。

# 国際赤十字・赤新月運動の基本原則

## ■人道 (Humanity)

国際赤十字・赤新月運動（以下、赤十字・赤新月）は、戦場において差別なく負傷者に救護を与えたいという願いから生まれ、あらゆる状況下において人間の苦痛を予防し軽減することに、国際的および国内的に努力する。その目的は生命と健康を守り、人間の尊重を確保することにある。赤十字・赤新月は、すべての国民間の相互理解、友情、協力、および堅固な平和を助長する。

## ■公平 (Impartiality)

赤十字・赤新月は、国籍、人種、宗教、社会的地位または政治上の意見によるいかなる差別をもしない。赤十字・赤新月はただ苦痛の度合いにしたがって個人を救うことに努め、その場合もっとも急を要する困苦をまっさきに取り扱う。

## ■中立 (Neutrality)

すべての人からいつも信頼を受けるために、赤十字・赤新月は、戦闘行為の時にずれの側にも加わることを控え、いかなる場合にも政治的、人種的、宗教的または思想的性格の紛争には参加しない。

## ■独立 (Independence)

赤十字・赤新月は独立である。各国の赤十字社、赤新月社は、その国の政府の人道的事業の補助者であり、その国の法律に従うが、常に赤十字・赤新月の諸原則にしたがって行動できるよう、その自主性を保たなければならない。

## ■奉仕 (Voluntary Service)

赤十字・赤新月は、利益を求めない奉仕的救護組織である。

## ■単一 (Unity)

いかなる国にもただ一つの赤十字社あるいは赤新月社しかありえない。赤十字社、赤新月社は、すべての人に門戸を開き、その国の全領土にわたって人道的事業を行なわなければならない。

## ■世界性 (Universality)

赤十字・赤新月は世界的機構であり、その中においてすべての赤十字社、赤新月社は同等の権利を持ち、相互援助の義務を持つ。

\*宣言：第20回赤十字・赤新月国際会議（1965年、ウィーン）

\*改定：第25回赤十字・赤新月国際会議（1986年、ジュネーブ）

# 目 次

I 支部の運営状況	
1. 諸会議	P4
(1) 評議員会	
(2) 監査	
(3) 赤十字業務推進協議会	
2. 令和7年度一般会計歳入歳出決算	P5
II 赤十字会員と社資（会費と寄付金）の募集状況	
1. 赤十字会員の募集状況	P6
2. 社資（会費と寄付金）の募集状況	P6
3. 日本赤十字社有功章等の贈呈	P6
(1) 社資功労	
(2) 役職功労	
(3) 協賛委員功労	
4. 島根県赤十字有功会の活動	P7
(1) 会員数	
(2) 活動状況	
III 赤十字の普及と広報活動の推進	
1. 令和7年全国赤十字大会	P9
2. 赤十字の普及と広報活動の推進	P9
(1) 赤十字運動月間における活動	
(2) 広報紙及び資料の配布・貸し出し	
(3) ホームページによる情報の発信について	
(4) ソーシャルメディア（Instagram）による情報の発信について	
(5) イベント等を通じた広報活動の実施について	
(6) 令和7年度『ACTION！防災・減災プロジェクト』の実施	
(7) 2025年大阪・関西万博における赤十字パビリオンの出展について	
(8) 日本赤十字社創立150周年プロジェクトにかかるワークショップについて	
IV 事業の実施状況	
1. 災害救護活動	P12
(1) 救護体制	
(2) 災害救護訓練	
(3) 救護体制強化のための研修	
(4) 災害関係諸会議	
(5) 災害情報収集、分析、共有について	
(6) 国内及び支部管内の災害救護・救援活動の状況	
(7) 小災害への対応	
(8) 赤十字防災セミナーの開催	
(9) 日本赤十字社防災教育事業（赤十字防災セミナー）における支部指導者養成研修会の開催	
(10) 主な救護資機材の整備状況	
(11) スポーツ集会等への救護員の派遣	

2. 救護看護師の養成 .....	P 22
(1) 医療施設における救護看護師の養成	
(2) 救護看護師養成奨学金制度	
3. 救急法・健康生活支援講習等の講習普及活動.....	P 23
(1) 救急法	
(2) 水上安全法	
(3) 健康生活支援講習	
(4) 幼児安全法	
4. 青少年赤十字.....	P 36
(1) 加盟校とメンバー数	
(2) 活動状況	
5. 赤十字奉仕団.....	P 44
(1) 奉仕団の概況	
(2) 奉仕団の設置と活動状況	
6. 医療事業・保健衛生活動.....	P 50
(1) 松江赤十字病院	
(2) 益田赤十字病院	
(3) 隠岐島前地区巡回診療	
7. 血液事業 .....	P 54
(1) 島根県赤十字血液センター	
(2) 献血運動の推進	
8. 社会福祉事業 .....	P 58
(1) 松江赤十字乳児院	
(2) 県内児童福祉施設への援護（『児童福祉施設支援金』の贈呈）	
9. 国際活動 .....	P 59
(1) 海外救援金の取扱い	
(2) 中四国（第5ブロック）各県支部共同国際救援事業	
(3) 第43回NHK海外たすけあいキャンペーン	
(4) 国際人道法セミナーの開催	

<参考資料>

- 参考1：評議員・支部役員名簿
- 参考2：支部長・副支部長・監査委員及び支部・施設幹部職員
- 参考3：日本赤十字社島根県支部事務局職員
- 参考4：令和7年度日本赤十字社島根県支部及び各施設の決算概況
- 参考5：日本赤十字社島根県支部現勢
- 参考6：地区分区事務局名簿

# I 支部の運営状況

## 1. 諸会議

### (1) 評議員会

島根県支部では、日本赤十字社定款第70条及び第71条に基づき、評議員会を年2回実施し、収支予算、事業計画、収支決算、役員選出等の議案を審議している。

令和7年度は、第106回評議員会を6月に、第107回評議員会を3月に参集形式で開催した。なお、議案は次のとおりで、全議案とも原案どおり承認された。



ア. 第106回評議員会（期日：令和7年6月10日 会場：島根県民会館 大会議室）

- 第1号議案 令和6年度 日本赤十字社島根県支部一般会計歳入歳出決算について
- 第2号議案 令和6年度 松江赤十字病院医療施設特別会計歳入歳出決算について
- 第3号議案 令和6年度 益田赤十字病院医療施設特別会計歳入歳出決算について
- 第4号議案 令和6年度 松江赤十字乳児院社会福祉施設特別会計歳入歳出決算について
- 第5号議案 令和6年度 島根県赤十字血液センター事業報告について

イ. 第107回評議員会（期日：令和8年3月4日 会場：島根県民会館 第1・第2多目的ホール）

- 第1号議案 令和8年度 日本赤十字社島根県支部事業計画について
- 第2号議案 令和8年度 日本赤十字社島根県支部一般会計歳入歳出予算について
- 第3号議案 令和8年度 松江赤十字病院医療施設特別会計歳入歳出予算について
- 第4号議案 令和8年度 益田赤十字病院医療施設特別会計歳入歳出予算について
- 第5号議案 令和8年度 松江赤十字乳児院社会福祉施設特別会計歳入歳出予算について
- 第6号議案 令和8年度 島根県赤十字血液センター事業計画について
- 第7号議案 日本赤十字社島根県支部役員（監査委員）の選出について

### (2) 監査

支部事務局が、事前に各赤十字施設に対し、事務局監査（事業実施状況聴取）を実施したうえで、令和7年6月4日に、監査委員による令和6年度の島根県支部及び各赤十字施設の業務の管理及び執行の監査を行い、適正であるとの報告を得た。

ア. 事務局監査

- 令和7年5月19日 対象：松江赤十字病院
- 令和7年5月20日 対象：益田赤十字病院
- 令和7年5月22日 対象：島根県赤十字血液センター
- 令和7年5月23日 対象：松江赤十字乳児院

イ. 監査委員監査

- 令和7年6月4日 対象：日本赤十字社島根県支部、県内赤十字施設

### (3) 赤十字業務推進協議会

社業の振興並びに赤十字業務の一層の推進を図るため、下記のとおり赤十字業務推進協議会を開催した。

- 開催日 令和8年1月28日  
 会場 オンライン会議形式 ※ZOOMによるオンライン会議  
 出席者 島根県地域福祉課1名、地区分区22名、支部事務局8名 計31名  
 報告事項 ア. 令和7年度社資募集状況について  
 イ. 令和7年度島根県支部主要事業について  
 協議事項 ア. 令和8年度島根県支部事業計画(案)について  
 イ. 令和8年度島根県支部予算(案)及び令和8年度地区・分區別社資目標額(案)について

## 2. 令和7年度一般会計歳入歳出決算

(単位：円)

【歳入】		【歳出】	
科 目	決算額	科 目	決算額
社資収入	128,132,123	災害救護事業費	15,329,062
補助金及び交付金収入	7,334,246	社会活動費	34,266,788
繰入金収入	4,036,558	国際活動費	1,099,096
資産収入	1,000,000	指定事業地方振興費	1,393,000
雑収入	2,154,321	地区分区交付金支出	12,538,429
前年度繰越金	19,292,099	社業振興費	20,841,768
		基盤設備交付金・補助金支出	574,000
		積立金支出	11,184,804
		総務管理費	31,077,916
		資産取得及び資産管理費	2,007,798
		本社送納金支出	18,710,868
歳入合計	161,949,347	歳出合計	149,023,529
歳入歳出差引額		12,925,818	

## Ⅱ 赤十字会員と社資（会費と寄付金）の募集状況

### 1. 赤十字会員の募集状況

日本赤十字社の活動は、赤十字の理念に賛同し、支援いただく赤十字会員によって支えられている。赤十字会員は、日本赤十字社の組織の基盤をなすものであり、本年度も、一人でも多くの方に赤十字会員に加入していただけるようその募集に努めた。

○赤十字会員数

個人(人)	法人(社)	合計
109,027	1,012	110,039

○会員（特別会員）数 \*左記会員数の内

個人(人)	法人(社)	合計
1,770	1,012	2,782

### 2. 社資（会費と寄付金）の募集状況

日本赤十字社の活動資金は、赤十字会員の拠出する会費と、その他寄付金（「会費」と「寄付金」の総称を「社資」という）によって支えられており、地区区分をはじめ、自治会や町内会の皆さまのご理解とご協力を得て、その募集を行っている。

本年度の状況は目標額156,500,000円に対し、総納入額127,739,123円（対前年度 55,047,838円減）であり、達成率は、81.6%となった。その内、地区区分の取り扱いは、目標額133,112,200円に対し、納入額94,487,714円（対前年度4,707,249円減）であり、達成率は71.0%となった。（別表Ⅰのとおり）

### 3. 日本赤十字社有功章等の贈呈

日本赤十字社では、社資または社業振興に顕著な功労のあった方々に対し、日本赤十字社有功章社員章等贈与規則に基づき、表彰を行っている。また、功労内容によっては国の表彰制度が適用となるため、適宜、国へ上申している。令和7年度における有功章等の贈呈状況は次のとおり。

#### (1) 社資功労

厚生労働大臣感謝状	1件（個人1名）
日本赤十字社社長感謝状	16件（個人8名・法人8社）
日本赤十字社金色有功章	11件（個人7名・法人4社）
日本赤十字社銀色有功章	28件（個人12名・法人16社）

#### (2) 役職功労

日本赤十字社金色有功章	1件（個人1名）
日本赤十字社銀色有功章	1件（個人1名）

#### (3) 協賛委員功労

日本赤十字社金色有功章	4件（個人4名）
日本赤十字社銀色有功章	3件（個人3名）

## 4. 島根県赤十字有功会の活動

島根県赤十字有功会は、赤十字に対する支援団体として平成10年に設立され、社資や義援金等への協力をはじめ、赤十字活動に対して様々な支援を行っている。

### (1) 会員数 (令和8年3月31日現在)

個人88名 法人108社 計196会員

### (2) 活動状況

#### ア. 会議の状況

名 称	期 日	会 場	備 考
島根県赤十字有功会 正副会長会議	4月23日	サンラポーむらくも(松江市)	会長・副会長・事務局 計10名出席
島根県赤十字有功会総会	7月9日	サンラポーむらくも(松江市)	会員・事務局 計46名出席
日赤紺綬・有功会会長協議会総会	10月3日	ホテルニューオータニ佐賀 (佐賀県)	副会長・事務局 計2名出席

#### イ. 研修等の状況

名 称	期 日	会 場	備 考
全国赤十字大会	5月13日	明治神宮会館(東京都)	会員 計3名参加
研修親睦旅行 (大阪・関西万博視察等)	9月17日 ～18日	大阪・関西万博会場 他 (大阪府)	会員・事務局 計24名参加

#### ウ. 赤十字活動への支援事業

対 象 施 設	寄 贈 品
松江赤十字病院	車いす(3台)、点滴スタンド(20台)

#### エ. 赤十字社資・国内義援金・海外救援金への協力活動の状況

名 称	内 容 ・ 状 況	
赤十字社資	協力件数・金額	202件 9,406,345円
令和6年能登半島地震災害義援金	協力件数・金額	2件 3,903,581円
令和6年9月能登半島大雨災害義援金	協力件数・金額	1件 3,000円
令和7年大船渡市赤崎町林野火災義援金	協力件数・金額	3件 25,000円
令和7年トカラ列島近海を震源とする地震災害義援金	協力件数・金額	1件 3,000円
令和7年台風第8号に伴う災害義援金	協力件数・金額	2件 13,000円
令和7年8月6日からの大雨災害義援金	協力件数・金額	4件 38,000円
令和7年台風第12号災害義援金	協力件数・金額	1件 3,000円
令和7年台風第15号災害静岡県義援金	協力件数・金額	2件 15,000円
令和7年台風第22号及び第23号災害義援金	協力件数・金額	2件 8,000円
令和7年11月18日大分市佐賀関の大規模火災義援金	協力件数・金額	5件 138,000円
NHK海外たすけあい	協力件数・金額	42件 623,000円
中東人道危機救援金	協力件数・金額	1件 3,000円
バングラデシュ南部避難民救援金	協力件数・金額	1件 3,000円
ウクライナ人道危機救援金	協力件数・金額	1件 10,000円
2025年ミャンマー地震救援金	協力件数・金額	3件 25,000円

## Ⅲ 赤十字の普及と広報活動の推進

赤十字の理念や活動に対する県民への理解を深め、会員の一層の増強を図るため、5月の赤十字運動月間をはじめ、年間を通じ、様々な広報活動に取り組んでいる。

### 1. 令和7年全国赤十字大会

会員の増強と赤十字思想の普及を図り、今後一層の社業の進展を期するため、毎年、赤十字運動月間の5月に開催されている『全国赤十字大会』が令和7年度は日本赤十字社名誉総裁である皇后陛下、名誉副総裁である各宮妃殿下のご臨席のもと、下記のとおり開催された。本県からも有功会員、地区区分職員、赤十字奉仕団員、青少年赤十字指導者、支部・施設職員等の17名が参会した。



期 日 令和7年5月13日  
会 場 明治神宮会館（東京都渋谷区代々木神園町1番1号）  
内 容 プロローグ、式典、実践活動報告

### 2. 赤十字の普及と広報活動の推進

日本赤十字社では、日本赤十字社創立日（5月1日）や世界赤十字デー（5月8日 \*創立者アンリー・デュナンの誕生日）など、赤十字にゆかりの深い5月を赤十字運動月間とし、赤十字への理解と活動資金への協力を呼びかける広報キャンペーンを全国で実施している。

当支部においても、赤十字運動月間を中心に、様々な広報活動に取り組み、赤十字の普及に努めた。

#### (1) 赤十字運動月間における活動

##### ア. 広報用グッズの配布

各地区区分において、赤十字会員増強運動にかかわる協賛委員・自治会役員や会議の参加者などに下記のとおり、広報用グッズを配布いただいた。

広報用グッズの内容 赤十字広報用カットバン  
広報用グッズの配布数 13,500枚

##### イ. メディアを活用した活動

赤十字活動への理解促進のため、日赤本社による全国での地上波テレビCMを実施したほか、地区区分と連携し、※各ケーブルテレビ放送でのテレビCMを実施した。

##### ※CM実施ケーブルテレビ局

山陰ケーブルビジョン、ひらたCATV、サンネットにちはら、雲南夢ネット飯南エリア  
おおなんケーブルテレビ、にしのしま光ネット、ぎんざんテレビ

##### ウ. レッドライトアッププロジェクト2025

「世界赤十字デー」である5月8日を中心に、全国の赤十字施設や歴史的建造物やランドマークとなる施設などを赤十字カラーである赤色にライトアップし、赤十字への理解と共感を広く国民に呼びかける本プロジェクトに対応して、島根県支部においても次のとおり実施した。

実施日時 5月7日・8日・9日の3日間 \*各日共通：日没後～22時

実施場所 松江城、山陰中央テレビジョン放送株式会社（鉄塔）、株式会社山陰合同銀行（本店ビル）  
計3カ所

## (2) 広報紙及び資料の配布・貸し出し

種別	名称	備考(配布・貸出先等)
日赤本社発行	赤十字新聞(毎月発行)	地区区分、社会教育施設、奉仕団、有功会員、青少年赤十字加盟校、報道機関等に配布
	赤十字運動月間パンフレット	地区区分(協賛委員等)、社会教育施設等に配布
	赤十字広報ポスター	地区区分、社会教育施設等に配布
島根県支部発行	しまねの赤十字	県内全体に配布 (年2回発行【計351,800部発行】)
	赤十字への協力について	地区区分(協賛委員等)に配布
	赤十字活動各種パネル	地区区分、赤十字施設、青少年赤十字加盟校等に貸出
	青少年赤十字SHIMANE	県内全小中高校、地区区分等に配布

## (3) ホームページによる情報の発信について

令和3年4月より、本社ホームページとの統合を実施しており、見易くタイムリーな情報発信に努めている。

## (4) ソーシャルメディア (Instagram) による情報の発信について

赤十字の活動をより多くの県民の皆さまへ伝えることを目的に、令和7年5月より、「Instagram」の支部アカウントを開設し、情報発信の強化に努めている。



## (5) イベント等を通じた広報活動の実施について

県民の皆さまに、より赤十字の活動を身近に感じてもらい、よき理解者として赤十字をご支援いただけるよう、下記のとおりイベント等を通じた広報活動を行った。

イベント名	期日	会場	実施内容
『第50回飯南町ぼたんまつり2025』 ※日赤飯南町区分区参加イベント	5月11日	飯南町役場周辺 (飯南町)	救援物資・パネル展示等
『看護の日イベント』	5月21日	松江赤十字病院 (松江市)	ハートラ着ぐるみによるPR活動、健康生活支援講習ミニ体験
『SDGs エシカルマルシェ』 ※出雲市赤十字奉仕団(未来へつなぐいのち出雲市連盟)主催イベント	8月3日	朱鷺会館 (出雲市)	救援物資・パネル展示、救急法ミニ講習コーナー等
『令和7年度島根県西部地震から7年フォーラム』 ※日赤大田市地区参加イベント	8月31日	大田市民会館 (大田市)	ハートラ着ぐるみによるPR活動、防災グッズ展示等
『島根大学学園祭』 ※島根大学学生赤十字奉仕団ぷらす参加イベント	10月12日 ～13日	島根大学 (松江市)	ハートラ着ぐるみによるPR活動、救援物資・パネル展示等
『おくいずも防災フェス』 ※日赤奥出雲町区分区参加イベント	10月26日	横田コミュニティセンター前道路(奥出雲町)	災害救援車・救援物資等展示、ハートラ着ぐるみによるPR活動等
『きん祭みんな祭農業文化祭』 ※日赤吉賀町区分区参加イベント	11月2日	吉賀町役場本庁舎 (吉賀町)	ハートラ着ぐるみによるPR・募金活動等
『ごうつ秋まつり2025』 ※日赤江津市地区参加イベント	11月16日	パレット江津 (江津市)	防災クイズ、パネル展示等

## (6) 令和7年度『ACTION! 防災・減災プロジェクト』の実施

日本赤十字社では、平成27年度から毎年、東日本大震災が起きた3月に、地域社会に向け「防災・減災への備え」を訴求するプロジェクト「ACTION! 防災・減災」を実施している。

島根県支部においても、このプロジェクトの趣旨に賛同いただいた県内の33社（団体）とともに、このプロジェクトに取り組んだ。

## (7) 2025年大阪・関西万博における赤十字パビリオンの出展について

日本赤十字社では、令和7年4月13日～10月13日（184日間）に開催された「2025年大阪・関西万博」において、赤十字パビリオン（国際赤十字・赤新月運動館）を出展し、赤十字のPRに努めた。

パビリオンでは、世界各地で頻発する紛争や災害による人道危機の現状と、そこに立ち向かう人々のヒューマンストーリーを伝える映像を『ドームシアター』で上映し、31万人を超える方々に来館いただいた。

また、島根県支部からも3名の職員をパビリオンスタッフとして延15日間にわたって派遣し、運営に携わった。

## (8) 日本赤十字社創立150周年プロジェクトにかかるワークショップについて

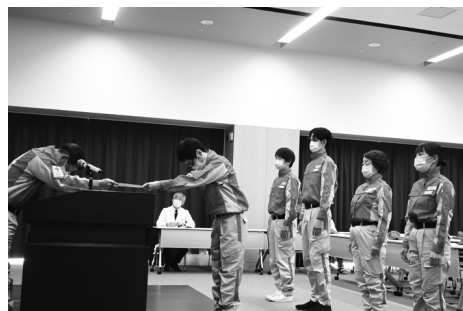
日本赤十字社が令和9年5月に創立150周年を迎えるにあたり、将来の日本赤十字社のあるべき姿を考える「ワークショップ」を下記のとおり実施した。本社主催の赤十字関係者を対象としたワークショップには、当支部所属の赤十字会員、青少年赤十字指導者を派遣した。

期 日	会 場	対 象	参加状況
7月15日 ～16日	日赤広島県支部 (広島県)	中四国各県赤十字支部・施設 150周年プロジェクト推進メンバー等	支部職員2名
9月19日	日赤島根県支部 (松江市)	島根県支部職員	支部職員9名
12月20日	日本赤十字社 (東京都)	赤十字関係者（ボランティア、赤十字会員、 青少年赤十字指導者等）	赤十字会員1名、 青少年赤十字指導者1名

## IV 事業の実施状況

### 1. 災害救護活動

被災された人々を救護する業務は、日本赤十字社の最も重要な事業であり、根幹をなすものである。「災害救助法」（同法に基づき支部は島根県と救助業務委託契約を締結）及び「災害対策基本法」、並びに「大規模災害特別措置法」においても、国及び地方公共団体の行う防災・救助業務への協力が義務付けられている。当支部では、常に災害に備え、救護員の確保と訓練の実施、救護資機材の充実に努め、救護体制の確保に万全を期している。



#### (1) 救護体制

##### ア. 救護班要員の登録と辞令交付式

区分	日程	常備救護班数	医師 (班長含む)	薬剤員	赤十字 看護師長	赤十字 看護師	主事 (兼:自動車操作要員)
松江赤十字病院	5月30日	3個班	6人	3人	3人	9人	3人
益田赤十字病院	5月8日	2個班	8人	3人	14人	16人	11人

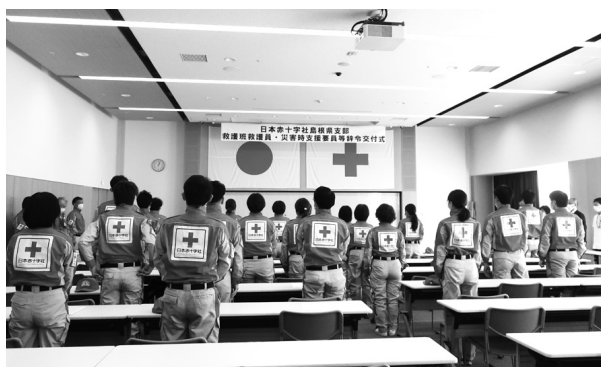
※他に、日赤島根県支部への災害時支援要員として、松江赤十字病院4人、益田赤十字病院1人、島根県赤十字血液センター2人を登録研修する。

##### イ. その他の救護体制

##### ① 日赤災害医療コーディネーターチーム

区分	日赤島根県支部	松江赤十字病院	益田赤十字病院	島根県赤十字 血液センター
医師	—	3人	2人	—
薬剤師	—	1人	—	—
看護師	1人	2人	2人	—
ロジ	1人	2人	1人	—

※平成25年10月1日付で本社と各都道府県支部単位に、医師である災害医療コーディネーターとその支援にあたるコーディネータースタッフによって構成される「日赤災害医療コーディネーターチーム」を設置した。日本赤十字社救護規則第7条に定める本社又は支部の災害救護実施対策本部要員の一人として、専門的な助言や自治体・他の医療救護機関等との連携や調整等の役割を担う。



②こころのケア指導者

区 分	日本赤十字社島根県支部	松江赤十字病院	益田赤十字病院	島根県赤十字血液センター
医 師	—	1人	—	—
看護師長	—	9人	3人	—
看 護 師	1人	2人	2人	—
主 事	—	—	2人	1人

③島根県原子力防災緊急被ばく医療体制における医療班

区 分	日本赤十字社島根県支部	松江赤十字病院	益田赤十字病院
医療本部協力	1名	—	—
スクリーニング	—	2チーム（18名）	1チーム（5名）
診断除染	—	2チーム（14名）	—
初期被ばく医療	—	1チーム（8名）	—

④災害派遣医療チーム（DMAT）

区 分	医師	赤十字 看護師長	赤十字 看護師	主事
日本赤十字社島根県支部	—	—	—	2人
松江赤十字病院	3人	2人	6人	8人
益田赤十字病院	4人	2人	7人	5人

※平成29年7月4日付で島根県と松江赤十字病院ならびに益田赤十字病院間で「島根DMATの派遣に関する協定書」を締結し、災害の急性期において知事からの要請を受けて出動し、原則、県内の災害現場で救命活動を行う（ただし、他の都道府県から派遣要請があり、必要と認めた場合には県外へも派遣する）。

また、平成22年10月16日付けで「中国地区DMAT協議会」が設置されており、中国5県の緊密な連携を図り、中国地区でのDMAT活動がスムーズに行われるよう、訓練や研修を実施している。

(2) 災害救護訓練

No.	訓練名	期日	会場	参加人数					
				日赤 島根 県支 部	松 江 赤 十 字 病 院	益 田 赤 十 字 病 院	島 根 県 赤 十 字 血 液 セ ン タ ー	赤 十 字 奉 仕 団	日 取 赤 鳥 取 十 字 県 支 院 部
1	令和7年度 高津川総合水防演習	5月24日	益田市	4		7	—	—	—
2	EMIS通信訓練	6月3日	島根県	2	1	1	—	—	—
3	島根県行政防災無線通信訓練	6月3日	日赤島根県支部 松江赤十字病院 益田赤十字病院	2	1	1	—	—	—
4	大規模地震時医療活動訓練	9月5日 9月6日	北海道	—	4	—	—	—	—
5	益田赤十字病院BCP・災 害対応訓練	9月26日 9月27日	益田赤十字病院	1	—	125	—	—	—
6	島根県総合防災訓練 (実働訓練)	10月18日	松江市	6	3	—	—	12	9
7	松江赤十字病院BCP訓練	10月18日	松江赤十字病院	—	30	—	—	—	—
8	第5ブロック各県支部合同 災害救護訓練	11月7日 11月8日	高知県	5	5	—	—	—	—
9	中国地区DMAT連絡協議会 (実働訓練)	11月15日 11月16日	山口県	—	3	5	—	—	—
10	島根県原子力防災通信連絡訓練	1月21日	島根県	1	—	—	—	—	—
11	島根県総合防災訓練 (図上訓練)	2月5日	島根県庁	4	—	—	—	—	—



### (3) 救護体制強化のための研修

日本赤十字社（本社）及び島根県支部が災害救護事業にかかる研修事業を実施し、救護要員の資質の向上を図った。

No.	研修名	期 日	場 所	参加人数			
				日赤島根県支部	松江赤十字病院	益田赤十字病院	血島液根セ県ン赤タ十字
1	日本赤十字社島根県支部救護班要員研修	5月8日	益田赤十字病院	4	-	53	-
2	日本赤十字社島根県支部救護班要員研修	5月30日	松江赤十字病院	4	35	-	2
3	災害時こころのケア研修	7月5日	益田赤十字病院	-	-	8	-
4	災害時こころのケア研修	8月30日	松江赤十字病院	-	13	-	-
5	日赤災害医療コーディネーター研修会	8月30日 8月31日	日本赤十字社（東京都）	-	-	1	-
6	救護看護師、新規採用職員災害救護研修	9月5日 9月6日	松江赤十字病院	3	48	-	-
7	日赤災害医療コーディネーター研修会	9月26日 9月27日	日本赤十字社（東京都）	2	2	-	-
8	救護看護師、新規採用職員災害救護研修	10月30日	益田赤十字病院	3	9	-	-
9	こころのケア指導者養成研修	11月23日	日本赤十字社（東京都）	-	1	-	-
10	災害対策本部要員研修	11月28日	日赤島根県支部	3	1	-	-

#### (4) 災害関係諸会議

No.	会議名	期 日	会 場	参加人数 (人)				
				島根県支部	松江赤十字病院	益田赤十字病院	血液センター	島根赤十字
1	島根県災害医療関係機関連絡会議	3月10日	サンラポーむらくも (松江市)	1	—	—	—	—
2	島根県防災会議	3月12日	くにびきメッセ (松江市)	1	—	—	—	—

#### (5) 災害情報収集、分析、共有について

- ①島根県総合防災情報システムの運用
- ②広域災害救急医療情報システム (EMIS) の運用



#### (6) 国内及び支部管内の災害救護・救援活動の状況

ア. 国内義援金の取扱い (集計期間: 令和7年4月1日～令和8年3月31日)

No.	受付項目	件 数 (件)	金 額 (円)
1	令和6年能登半島地震災害義援金	71	9,757,937
2	令和6年9月能登半島大雨災害義援金	18	483,859
3	令和7年大船渡市赤崎町林野火災義援金	16	744,481
4	令和7年トカラ列島近海を震源とする地震災害義援金	9	82,667
5	令和7年台風第8号に伴う災害義援金	3	16,000
6	令和7年8月6日からの大雨災害義援金	28	180,036
7	令和7年台風第12号災害義援金	8	14,251
8	令和7年台風第15号災害静岡県義援金	5	16,777
9	令和7年台風第22号及び第23号災害義援金	5	16,183
10	令和7年11月18日大分市佐賀関の大規模火災義援金	21	304,688
11	令和7年青森県東方沖地震義援金	11	315,874
合 計		195	11,932,753

イ. 島根県東部を震源とする震度5強地震 活動状況

年月日	活動内容
令和8年1月6日	10:18 地震発生 松江市・安来市震度5強
	10:20 支部職員安否確認、建物被害調査
	10:25 第二次救護体制宣言 災害警戒本部設置
	10:55 県内赤十字施設の被害状況等を確認
	11:20 島根県災害対策本部（県庁）にリエゾン派遣
	11:20 県内地区区分に被害・避難状況等の情報収集を開始
	13:05 救援物資の準備、夜間体制の構築を行う
	15:55 安来市地区から毛布50枚（5箱）、緊急セット36セット（6箱）、安眠セット50セット（10箱）要請あり
17:25 安来市地区に到着、救援物資の搬送を完了する	
令和8年1月7日 ～ 1月13日	第一次救護体制とし災害警戒本部活動継続
令和8年1月14日	第一次救護体制を解除 災害警戒本部活動を終了



## (7) 小災害への対応

県内の火災・風水害・雪害等による災害被災世帯に対し見舞金・見舞品（救援物資）を、また、住居以外の工場・店舗等の被災には見舞金を贈呈している。その他、火災・風水害等による死亡者に対しては弔慰金を贈呈した。

### ア. 住家災害

市町村名	対象世帯	対象人数	見舞品目			見舞金(円)
			毛布(枚)	緊急セット(点)	タオルケット(枚)	
松江市	3	7	7	3	5	15,000
浜田市	5	9	5	5	1	25,000
出雲市	7	15	7	7	2	35,000
益田市	1	2	2	1	0	5,000
大田市	1	2	2	1	2	5,000
安来市	2	2	1	1	0	10,000
江津市	6	16	3	6	7	30,000
雲南市	2	4	4	2	0	10,000
奥出雲町	0	0	0	0	0	0
飯南町	0	0	0	0	0	0
川本町	1	2	0	1	0	5,000
美郷町	0	0	0	0	0	0
邑南町	1	1	1	1	0	5,000
津和野町	0	0	0	0	0	0
吉賀町	0	0	0	0	0	0
海士町	0	0	0	0	0	0
西ノ島町	0	0	0	0	0	0
知夫村	0	0	0	0	0	0
隠岐の島町	2	2	2	2	0	10,000
合計	31	62	34	30	17	155,000

### イ. 工場・店舗災害見舞金

件数	金額(円)
5	50,000

### ウ. 死亡弔慰金

項目	人数	金額(円)
災害による死亡弔慰金	4	40,000

## (8) 赤十字防災セミナーの開催

開催日	開催地域	実施団体	災害への備え	災害図上訓練	災害エスノグラフィ	ひなんじょたいけん (HUG)	支部独自プログラム(※)	受講者(人)	
5月31日	浜田市	浜田市社会福祉協議会	○	-	-	-	-	26	
6月1日	出雲市	遥基地区災害対策本部	○	-	-	-	-	42	
6月1日	出雲市	杵築地区自治協会	○	-	-	-	-	41	
7月9日	出雲市	灘分コミュニティセンター	○	-	-	-	-	25	
7月22日	大田市	大国地区社会福祉協議会	○	-	-	-	-	31	
7月23日	益田市	山本郷自治会	○	-	-	-	-	20	
8月26日	美郷町	日本赤十字社島根県支部美郷町分区	-	-	-	○	-	12	
9月1日	江津市	江津市連合自治会協議会	○	-	-	-	-	25	
9月7日	出雲市	灘分地区災害対策本部	○	-	-	-	-	24	
9月24日	出雲市	灘分コミュニティセンター	○	-	-	-	-	6	
9月30日	出雲市	北浜コミュニティセンター	○	-	-	-	-	20	
10月5日	吉賀町	樋口地区自主防災組織	○	-	-	-	-	30	
10月18日	松江市	J P 労組松江支部	○	-	-	-	-	30	
11月8日	大田市	静間地区社会福祉協議会	-	-	-	○	-	40	
11月9日	出雲市	荒木地区災害対策本部	○	-	-	-	-	20	
11月16日	松江市	古志原地区防災士会	○	-	-	-	-	60	
11月20日	出雲市	出西コミュニティセンター	-	○	-	-	-	20	
11月29日	浜田市	J A いわみしまね中央	○	-	-	-	-	63	
12月14日	松江市	松江市手をつなぐ育成会	-	-	-	-	○	24	
2月27日	出雲市	平田地域福祉のまちづくり協議会	○	-	-	-	-	17	
3月1日	安来市	宇波地区自主防災組織	○	-	-	-	-	28	
3月6日	海士町	隠岐島前高校	-	-	-	-	○	5	
3月7日	海士町	海士町教育委員会	-	-	-	○	○	45	
実施回数：23回								受講者計	654 (927)

※ 参考：受講者計（ ）は令和6年度同時期実績

※ 支部独自プログラム・・・避難所について、ダンボールベッド、濡れない足湯、炊き出し  
リラクゼーション、ホットタオル等



(9) 日本赤十字社防災教育事業（赤十字防災セミナー）における支部指導者養成研修会の開催

No.	研修名	期 日	会 場	参加人数				
				日赤島根県支部	松江赤十字病院	益田赤十字病院	血液根県赤十字	ボランティア
1	防災教育事業主任指導研修	10月20日～ 10月21日	日本赤十字社 (東京都)	1	1	—	—	—
2	防災教育事業指導者養成研修	2月12日～ 2月13日	日赤島根県支部 (松江市)	—	—	3	—	4

※2 防災教育事業指導者養成研修には、初めてボランティアの参加があり、指導者として認定した。

(10) 主な救護資機材の整備状況

項目	資機材名	数量
通信機器	無線機（150MHz帯・400MHz帯の基地局・移動局）	53
	衛星携帯電話（イリジウム）	2
	衛星車載電話（ワイドスター）	1
	簡易無線機	10
救護資機材	医療セット	3
	エアーテント（大） ※患者等収容用テント	2
	エアーテント（小） ※診察用テント	1
	災害用移動炊飯器	78
	パイプテント	3
	ワンタッチテント	2
	発電機	6
	蓄電池	2
	折畳寝台	37
	簡易ベッド	10
	担架	26
	担架架台	22
	バルーン投光器	3
	投光器	4
	ドンネル式ライト	2
	GMサーバイメータ	4
AED（自動体外式除細動器）	5	
除染セット ※エアーテント、防護服、AED等	1	
車 両	災害救援車	12
	内訳：日赤島根県支部	7台
	松江赤十字病院	2台
	益田赤十字病院	3台
救援物資	毛布	1,220
	タオルケット	1,470
	緊急セット	522
	安眠セット	470
その他	国内型緊急対応ユニット（dERU）	3

※国内型緊急対応ユニット（dERU）については、中四国各県支部共有の救護資機材であり、現在は、香川県支部（17年度整備）、広島県支部（19年度整備）、高知県支部（21年度整備）に配備している。

## (11) スポーツ集会等への救護員の派遣

スポーツ、集会等広域的に実施される多数の参加者が集まる公益的な行事の際に不慮の傷病者の救護にあたるため救護員を派遣した。

件数	日数(日)	対応施設	派遣期日	行事名	対象者数(人)	医師(人)	看護師(人)	被救護者数(人)
1	1	松江	4月27日	第41回中国高等学校総合体育大会空手道競技大会	80	1		5
2	1	松江	5月22日	第75回全国建築板金業者島根県大会	200		2	0
3	1	松江	6月7日	第63回島根県高等学校総合体育大会空手道競技大会	100	1		7
4	1	松江	6月10日	令和7年度島根県警察逮捕術大会	222	1		1
5	1	松江	6月11日	令和7年度島根県警察柔道・剣道大会	612	1		4
6	1	松江	6月22日	エンジョイ！軟式野球フェスティバル2025島根予選大会	150		1	0
7	1	松江	7月5日	第45回全日本バレーボール小学生大会 島根県大会	900		1	0
	1	松江	7月6日	第45回全日本バレーボール小学生大会 島根県大会	600		1	0
8	1	松江	7月6日	第54回ローソニックカップ島根県少年武道大会(剣道)	1,500		1	0
	1	松江	7月13日	第54回ローソニックカップ島根県少年武道大会(柔道)	600		1	10
9	1	松江	7月19日	ユニバーサルマリリアクティビティ体験会	75		2	1
10	1	松江	8月9日	第39回小学生バレーボール中国大会	1,000		1	2
	1	松江	8月10日	第39回小学生バレーボール中国大会	1,000		1	1
11	1	松江	8月9日	島根県地方青少年弓道錬成大会	40		1	0
	1	松江	8月10日	島根県地方青少年弓道錬成大会	40		1	0
12	1	松江	8月24日	マリンスポーツフェスタ2025	196		1	0
13	1	松江	9月7日	第55回島根県武道振興大会(剣道・柔道・相撲)	1,000		1	3
	1	松江	9月7日	第55回島根県武道振興大会(弓道)	60		1	0
	1	松江	9月7日	第55回島根県武道振興大会(なぎなた・柔剣道)	60		1	0
14	1	松江	10月18日	J Aカップ 第42回島根県学童軟式野球選手権大会	450		1	0
	1	松江	10月19日	J Aカップ 第42回島根県学童軟式野球選手権大会	200		1	0
	1	支部	10月25日	J Aカップ 第42回島根県学童軟式野球選手権大会	200		1	0
15	1	松江	10月18日	令和7年度中国ブロックスポーツ少年団男子バレーボール交流大会	120		1	0
	1	松江	10月19日	令和7年度中国ブロックスポーツ少年団男子バレーボール交流大会	135		1	0
16	1	松江	11月1日	令和7年度島根県高校空手道新人戦	60	1		3
17	1	松江	11月1日	エンジョイ！バレーボールフェスティバル2025島根予選大会	450		1	1
	1	松江	11月2日	エンジョイ！バレーボールフェスティバル2025島根予選大会	200		1	0
18	1	松江	11月30日	第36回松江地区空手道選手権大会	350		2	3
19	1	支部	12月20日	エンジョイ！剣道フェスティバル2026島根予選大会	50		1	0
20	1	松江	3月8日	第25回島根県小学生バレーボール新人大会	800		1	0
計	30				11,450	5	28	41

松江 : 松江赤十字病院

支部 : 日本赤十字社島根県支部職員又は登録指導員(水安/水上安全法指導員、救急法/救急法指導員)

## 2. 救護看護師の養成

医療の高度・専門分化や保健、医療、福祉のニーズが増大する中、医療施設・血液センター・福祉施設などで幅広い業務に対応できる資質の高い看護師の養成は重要な事業であるとともに、救護機関として、災害救護活動の中心をなす看護師の養成は、救護体制整備の基礎となるものである。



### (1) 医療施設における救護看護師の養成

日本赤十字社の行う救護活動において、救護活動の中心となる看護師は、赤十字医療施設に看護師として3年以上勤務し、一定の救護教育と訓練を受けたものである。

赤十字の理念や基本原則に則って、災害時において救護看護師として活動できる幅広い能力を身につけるため、3年間にわたる研修を行っており、毎年松江、益田両赤十字病院と連携し災害時の看護、トリアージ、被災者への心理的支援等の必要なカリキュラムを実施している。

#### ア. 救護員としての赤十字看護師研修

期 日	実施病院	対 象	内 容	人数(人)
4月3日	松江赤十字病院	令和7年度採用看護師他未修者	赤十字概論 I・II・III	82
5月9日	益田赤十字病院			
9月6日	松江赤十字病院	令和6年度採用看護師他未修者	災害看護論 I・II・III・IV	51
10月30日	益田赤十字病院	令和5年度採用看護師他未修者		9
6月7日・8・15日	益田赤十字病院	令和6年度採用看護師他未修者	救急法基礎講習 救急員養成講習	12
11月29日・30日 12月6日	松江赤十字病院	令和5年度採用看護師他未修者		36

#### イ. 災害時のこころのケア研修会

期 日	実施病院	対 象	人数(人)
7月5日	益田赤十字病院	益田赤十字病院職員	8
8月30日	松江赤十字病院	松江赤十字病院職員	13

### (2) 救護看護師養成奨学金制度

松江赤十字看護専門学校の開校に伴い、必要となる救護看護師養成のため、赤十字教育施設への進学者に向けた奨学金制度を平成16年に立ち上げ、平成18年度から貸与を実施しており、これまで16人が制度を利用した。

※令和7年度末の奨学金貸与状況：貸与を受け在学している奨学生0人

### 3. 救急法・健康生活支援講習等の講習普及活動

#### (1) 救急法

災害時はもとより、日常突発的な事故による傷病者に対する適切な救命手当・応急手当、事故者の搬送法など人命を救助するための知識と技術を普及した。なお、平成19年度より救急法ではAED（自動体外式除細動器）を用いた講習会を行っている。救急法基礎講習および救急法救急員養成講習は、令和4年4月1日より、「JRC（日本蘇生協議会）ガイドライン2020」に基づいた内容に一部変更された。



講習種別	実施回数(回)	受講者数(人)	認定者数(人)
救急法基礎講習 (4時間)	13 (15)	211 (193)	修了者数211 (193) 認定者数211 (193)
救急員養成講習 (12時間)	7 (9)	150 (142)	修了者数150 (140) 認定者数148 (139)
短期講習 (適宜)	208 (219)	6,633 (6,795)	
指導員養成講習 (30時間)	1 (2)	5 (24)	5 (24)
合計	228 (245)	6,999 (7,154)	

※（ ）は令和6年度実績

#### (2) 水上安全法

水の事故を防ぐための、水泳事故の防止、泳ぎの基本、溺者の救助法、水難時の救助法、救命手当・応急手当等についての知識や技術を普及した。島根県内での指導員養成講習を平成23年以来14年ぶりに実施し、指導員として4名を認定した。



講習種別	実施回数(回)	実施者数(回)	認定者数(人)
救助員養成講習〔プール〕 (14時間)	1 (1)	10 (7)	修了者数 10 (7) 認定者数 9 (7)
救助員養成講習〔海〕 (12時間)	1 (1)	4 (6)	修了者数 4 (6) 検定者数 4 (6)
短期講習 (適宜)	22 (14)	668 (372)	
指導員養成講習 (30時間)	1 (0)	4 (0)	4 (0)
合計	25 (16)	686 (385)	

※（ ）は令和6年度実績

#### (3) 健康生活支援講習

健やかな高齢期を迎えるため、自身の健康管理・健康増進、介護予防、高齢者の介護・自立支援のための知識と技術を普及した。

『避難生活支援講習』については、被災した高齢者の避難所生活に焦点をあて、短期講習としての開催の他に、地域における防災セミナー、学校における防災スクールでも実技などを取り入れ実施した。また、『フレイル予防』の短期講習も実施した。



講習種別	実施回数(回)	受講者数(人)	認定者数(人)
支援員養成講習 (9時間)	3 (1)	27 (9)	修了者数 23(9) 認定者数 23(9)
短期講習(避難生活支援講習) (2時間)	9 (13)	205 (480)	
短期講習(地域で支える認知症) (1.5時間)	0 (1)	0 (61)	
短期講習 (適宜)	8 (7)	156 (182)	
指導員養成講習 (30時間)	0 (1)	0 (4)	0 (4)
合計	20 (23)	368 (736)	

※ ( ) は令和6年度実績

#### (4) 幼児安全法

たいせつな子どものいのちを守るため、乳幼児期に起こりやすい事故の予防と応急手当やかかりやすい病気と症状に対する手当、「乳幼児の一次救命処置」として、乳幼児に特化した心肺蘇生、AEDの使い方についての知識と技術を普及した。また、災害時に備えた「災害時の乳幼児生活支援」の短期講習を実施した。



講習種別	実施回数(回)	受講者数(人)	認定者数(人)
支援員養成講習 (10時間)	2 (3)	29 (21)	修了者数：29(21) 認定者数：29(21)
短期講習 (適宜)	98 (103)	1,554 (1,636)	
指導員養成講習 (30時間)	1 (0)	5 (10)	5 (10)
合計	101 (107)	1,588 (1,667)	

※ ( ) は令和6年度実績

#### 参考：令和7年度 総講習実績

※講習実施状況詳細は別表Ⅱを参照

区分	実施回数(回)	受講者数(人)	区分	実施回数(回)	受講者数(人)
救急法	228 (245)	6,999 (7,154)	健康生活支援講習	20 (23)	388 (736)
水上安全法	25 (16)	686 (385)	幼児安全法	101 (107)	1,588 (1,667)
合計			374回 (391)回		9,661人 (9,942)人

※ ( ) は令和6年度実績

## 4. 青少年赤十字

青少年赤十字は、赤十字の精神に基づいて世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、青少年自身が日常生活の中での実践活動を通じて、いのちと健康を大切に、地域社会、国家・世界のために奉仕し、世界の人々との友好親善の精神を育成することを目的としている。

青少年赤十字の活動は、世界の青少年赤十字に共通する3つの実践目標 ①「健康・安全」（生命と健康を大切に） ②「奉仕」（人間として社会のため、人のためにつくす責任を自覚し、実行する） ③「国際理解・親善」（広く世界の青少年を知り、仲良く助け合う精神を養う）を掲げるとともに、自主的で自律した生活態度を養うために「気づき、考え、実行する」という態度目標を掲げている。

文部科学省が定めている学習指導要領においては、「生きる力」を教育の柱に掲げ、それを「自ら学び、考え、主体的に判断する能力」と位置づけている。青少年赤十字の実践目標や態度目標、そして様々な指導方法は「生きる力」に結びつくものであり、また青少年赤十字の活動は幼児・児童・生徒の「心の教育」、「命を大切にする教育」に寄与するものとして多くの加盟校に活用されている。



### (1) 加盟校とメンバー数 (令和8年3月31日現在)

校種	加盟校数	メンバー(男)(人)	メンバー(女)(人)	メンバー(計)(人)	指導者(人)
幼稚園	17	199	162	361	110
保育所(園)	44	1,258	1,238	2,496	726
小学校	97	7,584	7,239	14,823	1,524
中学校	59	5,264	4,988	10,252	1,056
高等学校	37	6,759	5,955	12,714	1,037
特別支援学校	13	648	348	996	564
義務教育学校	2	791	773	1,564	104
合計	269 (265)	22,503 (22,451)	20,703 (20,762)	43,206 (43,186)	5,011 (4,691)

※ ( ) は令和7年3月31日時点

### (2) 活動状況

#### ア. 会議

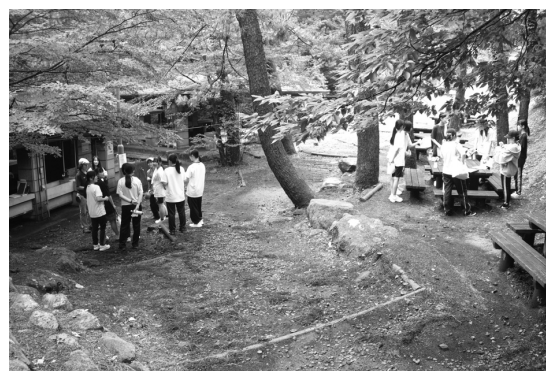
島根県青少年赤十字指導者協議会は加盟校の校長、指導者、教育行政関係者により昭和25年6月に設立され、県内外で会議を行い、青少年赤十字の普及や育成に努めている。(役員名簿は、別表Ⅲ参照)

	事業名	開催時期	開催場所	備考(参加者等)
1	島根県青少年赤十字指導者協議会役員会・総会	6月11日	ホテル白鳥(松江市)	役員会: 役員20名、事務局3名 総会: 役員16名、指導者4名、事務局3名
2	青少年赤十字全国指導者協議会総会・研修会	7月4日	日本赤十字社 (東京都)	指導者協議会長
3	全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会総会	役員会7月7日 総会7月8日~9日	日本赤十字社 (東京都)	賛助奉仕団委員長、団員(全国役員)
4	第5ブロック(中四国) 青少年赤十字賛助奉仕団連絡協議会・研修会	11月13日 ~14日	日赤高知県支部 (高知県)	賛助奉仕団委員長、顧問
5	第5ブロック(中四国) 青少年赤十字指導者協議会長並びに事務担当者会議	11月20日 ~21日	日赤岡山県支部 (岡山県)	指導者協議会会長、支部担当者
6	島根県青少年赤十字指導者協議会三役会	3月25日	日本赤十字社 (東京都)	指導者協議会副会長2名、県教育庁2名、 賛助奉仕団委員長1名、事務局3名

#### イ. メンバー対象の研修会・その他事業

青少年の育成を図るため、島根県青少年赤十字指導者協議会、島根県高等学校文化連盟青少年赤十字部門において研修会等の開催やメンバーの派遣を行った。

	事業名	開催時期	開催場所	備考(参加者等)
1	島根県高等学校青少年赤十字メンバー 春季協議会・指導者会	5月22日	市民活動センター・ STICビル (松江市)	高校メンバー149名、指導者15名
2	島根県青少年赤十字メンバー リーダーシップ・トレーニング・センター (小・中・高合同)	8月6日 ～8日	三瓶青少年交流の家 (大田市)	メンバー 小:8 中:13 高:24 計45名 指導者 小:3 中:4 高:4 計11名 賛助奉仕団:2名 学生奉仕団:1名 事務局:4名
3	島根県高等学校青少年赤十字メンバー 松江ブロック研修会	11月1日	松江東高等学校 (松江市)	高校メンバー40名、指導者5名
4	島根県青少年赤十字メンバー・リーダーシップ トレーニング・センター (隠岐会場)	12月6日	隠岐の島町立西郷中 学校 (隠岐の島町)	隠岐地区メンバー 中:13名 計13名 指導者 中:5名 計5名
5	島根県高等学校青少年赤十字メンバー 秋季協議会・指導者会	12月19日	市民活動センター・STIC ビル (松江市)	高校メンバー99名、指導者14名
6	島根県青少年赤十字メンバー・リーダーシップ トレーニング・センター (益田会場)	1月31日	益田市総合福祉セン ター (益田市)	益田地区メンバー 小:1 中:16 計17名 指導者 小:2名 中:5名 高:1名 計8名
7	青少年赤十字スタディー・センター	3月22日 ～26日	山中湖村 東照館 (山梨県)	高校メンバー2名派遣



#### ウ. 指導者対象の研修会・その他事業

青少年の育成や青少年赤十字活動へ理解・協力を呼びかけるための、研修会等の開催や、赤十字について理解を深めるための事業への参加を行った。

	事業名	開催時期	開催場所	備考(参加者等)
1	全国赤十字大会	5月13日	明治神宮会館 (東京都)	指導者協議会役員1名
2	指導主事対象青少年赤十字研究会	8月6日	日本赤十字社 (東京都)	指導主事1名
3	島根県青少年赤十字指導者講習会	2月10日	サンラポーむらくも (松江市)	指導者:15名、奉仕団:4名、 指導者協議会正副会長、事務局:6名 計25名

エ. 青少年赤十字活動等へのサポート状況

学校での青少年赤十字活動や、防災について学ぶ『防災スクール』などで講師の派遣を行い、サポートを図った。

	期 日	種 別	対 象	内 容
1	4月23日	加盟登録式	安来市立伯太中学校	対 象：生徒104名、教員16名 内 容：JRCについての講話、ちかい唱和、ワッペン贈呈 派遣者：賛助奉仕団員1名、支部職員1名
2	4月25日	加盟登録式	安来市立第三中学校	対 象：生徒143名、教員27名 内 容：JRCについての講話、ちかい唱和、ワッペン贈呈 派遣者：賛助奉仕団員1名、支部職員1名
3	4月28日 5月12日	防災スクール	松江市立美保関中学校	対 象：生徒9名、教員1名 内 容：災害・防災についての講義、「ひなんじょたいけん」 派遣者：支部職員1名
4	7月3日	加盟登録式	安来市立第一中学校	対 象：生徒438名、教員31名 内 容：JRCについての講話、ちかい唱和、ワッペン贈呈 派遣者：賛助奉仕団員1名、支部職員1名
5	9月24日	防災スクール	安来市立第二中学校	対 象：生徒29名、教員3名 内 容：災害・防災についての講義、「ひなんじょたいけん」 派遣者：支部職員1名
6	11月16日	防災スクール	大田市立第二中学校	対 象：生徒6名、教員3名 内 容：災害・防災についての講義、炊き出し体験 派遣者：支部職員1名
7	12月16日	防災スクール	島根県高等学校 家庭クラブ連合	対 象：生徒36名、教員19名 内 容：災害・防災についての講義、「ひなんじょたいけん」 派遣者：支部職員1名
8	12月20日	防災スクール	島根県青少年の家 主催「防災キャンプ」	対 象：生徒12名 内 容：災害・防災についての講義 派遣者：支部職員1名
9	3月10日	防災スクール	出雲市立河南中学校	対 象：生徒147名、教員8名 内 容：災害・防災についての講義 派遣者：支部職員1名
10	3月13日	防災スクール	島根県立三刀屋高等学校 掛合分校	対 象：生徒55名、教員5名 内 容：災害・防災についての講義、「ひなんじょたいけん」 派遣者：支部職員1名



オ. 青少年赤十字活動への助成

平成22年度より、青少年赤十字加盟校の活動の充実・振興に資するとともに、未加盟校への啓発を図るため、青少年赤十字活動に対する助成を行っている。1校あたり15,000円を上限に、活動内容に応じて助成しており、今年度の助成校（68校）は下欄のとおりである。

	園名・学校名	活動テーマ
1	松江市立乃木小学校	未来に向かってひとみかがやき笑顔あふれる乃木っ子の育成
2	松江市立朝酌幼稚園	朝酌元気もりもり畑とわくわく広場を作ろう
3	安来市立認定こども園赤屋	人が好き 地域が好き
4	西ノ島町立西ノ島中学校	地域の海水浴場をきれいにしよう！
5	隠岐の島町立五箇中学校	地域の施設にボランティアに行こう！
6	吉賀町立柿木小学校	今年もお花いっぱいプロジェクト
7	浜田市立金城中学校	学校の周りをたくさんの緑で埋めよう
8	吉賀町立六日市中学校	花に囲まれた心安らぐ環境づくり
9	浜田市立旭中学校	一人暮らしの高齢者にメッセージを送ろう
10	雲南市立認定こども園掛合保育所	花と野菜を育てよう
11	雲南市立認定こども園海潮こども園	①野菜を元気に育てよう！（食育栽培） ②仲良しのお友達いっぱい！（地域との交流）
12	島根県立松江清心養護学校	①地域の方と交流しよう ②異学年交流を通して、みんなが笑顔になる活動しよう
13	松江市立母衣幼稚園	地域の方と花苗植え交流をしよう
14	大田市立長久小学校	障がいについて理解を深めよう
15	益田市立真砂小学校	地域の方々に感謝の気持ちを伝えよう
16	安来市立伯太中学校	ボランティア活動を通して、伯太町に貢献しよう！
17	安来市立島田こども園	地域の人とのふれあいを大切にして
18	大田市立静間小学校	環境を大切にしよう
19	大田市立北三瓶小学校	オキナグサを守ろう。地域の環境を美しくしよう。
20	益田市立東陽中学校	Cleaning Project in Kamate
21	大田市立温泉津小学校	学校の環境を豊かできれいにしよう！
22	松江市立持田幼稚園	朝酌幼稚園の友達と楽しく遊ぼう！
23	出雲市立遙堪小学校	地域を花いっぱいになろう
24	津和野町立木部小学校	地域の人と交流しよう（米作りを通して）
25	安来市立能義小学校	友だちや地域の方と力を合わせて サツマイモを育てよう
26	雲南市立掛合小学校	学校をきれいにしよう！
27	松江市立やくも保育園	きれいなお花で心もほっこりしよう！
28	吉賀町立七日市小学校	地域・保育所との交流
29	安来市立認定こども園母里	花いっぱい 野菜いっぱい 笑顔いっぱい
30	出雲市立湖陵中学校	地域に貢献しよう
31	松江市立美保関東保育所	野菜を育てよう！
32	海士町立海士小学校	お年寄りや保育園児と交流しよう
33	松江市立古江幼稚園	湖北の友達と仲良くなろう！
34	吉賀町立吉賀中学校	花のある落ち着いた環境になろう！
35	島根県立三刀屋高等学校	“知って・感じて・交流する” 地域企画いろいろ ～神楽de防災！～

36	大田市立志学小学校	「三瓶大すき宿泊体験学習」
37	たいしゃ保育園	平和の大切さを感じよう
38	まつお保育園	花と野菜を育てよう
39	松江市立川津幼稚園	にこにこ広場（園庭）を“それいいね”でいっぱいにして
40	邑南町立瑞穂中学校	保育園訪問
41	邑南町立石見中学校	①救急法を学ぼう ②ボランティア活動で地域に貢献しよう
42	川本町立川本小学校	保育園のみんなと仲良く遊ぼう！（ボランティア）
43	大田市立大森小学校	文化財保護
44	松江市立意東幼稚園	地域交流 さつま芋の苗植え
45	大田市立鳥井小学校	ふるさと鳥井の海岸をきれいにしよう！
46	松江市立大野小学校	交流を通して全児童が本を好きになる楽しい活動を計画しよう。
47	松江市立意東小学校	本に親しむ活動をとおして、異学年交流をしよう
48	出雲南福祉会 一の谷保育園	食育について考え、食の大切さについて考えよう。
49	大田市立大田小学校	卒業プロジェクト お掃除大作戦
50	松江市立秋鹿幼稚園	古江幼稚園の友達と仲良くなろう！
51	益田市立豊川小学校	保育園の友だちとの交流
52	大田市立仁摩小学校	ぼうさい探検隊
53	島根県立松江南高等学校	防災、手話
54	松江市立母衣小学校	①のびのびファームで花・野菜を育てよう ②学校をピカピカにしよう
55	安来市立第一中学校	清掃ボランティアをしよう
56	島根県立平田高等学校	防災の啓発に関する調査や活動を行う
57	島根県立飯南高等学校	飯南町の地域医療のニーズを捉え、地域の人を元気にする
58	松江市立佐太幼稚園	①講武幼稚園・御津保育所・恵曇保育所の友達と仲良くなろう ②野菜とお花を育てよう
59	邑南町立矢上小学校	身体の手台である足を使う遊びを全校に広めよう
60	出雲市立今市幼稚園	「ありがとうの気持ちを届けよう」～ボランティア活動を通して～
61	松江市立御津保育所	海岸クリーン活動
62	島根県立松江工業高等学校	①校内外の環境整備 ②学園祭での寄付活動と防災の呼びかけ
63	安来市立南小学校	ボランティア活動をしよう！
64	大田市立久手小学校	命の学習をしよう
65	津和野町立津和野小学校	あったかハートを贈ろう
66	安来市立広瀬小学校	富田川から環境を考えよう
67	安来市立母里小学校	みんなが幸せになるために
68	雲南市立認定こども園加茂こども園	水害を想定した避難訓練

## 5. 赤十字奉仕団

### (1) 奉仕団の概況

日本赤十字社赤十字奉仕団規則に基づいて、県内の市町村毎に地域赤十字奉仕団を結成している。また、学生を含めた青年および特定の職能を有する人たちが特別赤十字奉仕団を結成し、それぞれの特性と能力を活かして奉仕活動を展開している。

活動分野は、広範囲にわたっており、赤十字思想の普及、青少年赤十字の普及・育成、高齢者福祉の推進等を中心に、社会情勢の変化学や国民生活の実態に即した活動を行っている。

奉仕団では研修会、協議会等を通じて、団員の意識や知識・技術の向上を図っている。

また、『日本赤十字社島根県支部赤十字奉仕団委員長協議会』を開催し、各奉仕団の連携と協働を図り、横断的な繋がりを強化している。(同協議会に青少年赤十字指導者協議会会長も出席し、JRCとの連携も図っている。)

### (2) 奉仕団の設置と活動状況

ア. 地域赤十字奉仕団 (浅津知子委員長：団員2,165名 市町村毎 17団)

昭和32年4月1日に県内の市町村毎に奉仕団を結成し、地域のニーズに即した奉仕活動を行っている。赤十字思想の普及・赤十字活動資金(会費)募集、非常災害に対する防災・救助活動、救急法の講習、地域子育て支援等の赤十字事業の推進を行っている。



#### ①研修会・会議

##### 1) 県内全体会

	事業名	期日	会場	備考(参加者等)
1	赤十字奉仕団島根県支部委員会 地域赤十字奉仕団総会・研修会	6月8日	出雲市民会館 (出雲市)	参加者：支部委員会委員長、 副委員長3名、団員52名 総会・令和6年度事業報告 ・各種事業参加者報告 ・令和7年度事業計画 研修会・赤十字の活動について
2	島根県支部赤十字奉仕団 委員長協議会	9月2日	日赤島根県支部 (松江市)	支部委員会委員長

##### 2) 県内地域別研修・講習・訓練参加

	事業名	期日	会場	備考(参加者等)
1	赤十字防災セミナー	7月14日	江津市総合市民センター (江津市)	江津市赤十字奉仕団 55名
2	松江赤十字病院 災害時炊き出し訓練	9月6日	松江赤十字病院 (松江市)	出雲市赤十字奉仕団 6名
3	島根県総合防災訓練 (避難所訓練・炊き出し訓練)	10月18日	島根公民館 (松江市)	松江市赤十字奉仕団 12名



### 3) 全国・第5ブロック会議等団員派遣

	事業名	期日	会場	備考(参加者等)
1	全国赤十字大会	5月13日	明治神宮会館 (東京都)	委員長、副委員長1名
2	赤十字奉仕団中央委員会	7月3日 ～4日	日本赤十字社 (東京都)	支部委員会委員長
3	赤十字ボランティア・リーダー研修会	8月23日 ～25日	日本赤十字社 (東京都)	地域赤十字奉仕団1名
4	中国・四国ブロック赤十字奉仕団研修会	10月6日 ～7日	日赤大阪府支部、 大阪・関西万博(大阪府)	地域赤十字奉仕団3名

#### ②赤十字活動資金(会費)への協力

令和7年度実績 137件 219,381円

#### イ. 特別赤十字奉仕団

設立目的に応じ、奉仕団の特性と能力を生かした赤十字活動の推進にあたっている。島根県支部には、青年層で組織した青年赤十字奉仕団と特殊技能を有する特殊赤十字奉仕団が設立されている。

各々特技を生かし、青少年赤十字の普及・啓発支援、災害救護、救急法等の技術知識の習得、施設奉仕、公共施設の清掃奉仕等様々な活動を行っている。また、それぞれの奉仕団において、研修会、協議会、その他の各種会合を開いて意識向上を図っている。

#### ①青年赤十字奉仕団

平成17年に設立されたしんじ湖青年赤十字奉仕団(足立剛委員長:団員7名)並びに平成22年に設立された島根大学学生赤十字奉仕団ぷらす(篠田葵委員長:団員28名)の単位団が活動2している。



全国及び第5ブロック(中四国)の研修会等で培った知識・

技術を生かして、赤十字思想の普及、地域のニーズに即した活動を積極的に実践している。また全国や第5ブロックの協議会及び研修会等へ代表者を派遣し、赤十字に集う若いネットワークを通じて、活発に協議・情報交換を行い、交流を深めている。

#### 1) 本社・ブロック主催の会議・研修会等(島根大学学生赤十字奉仕団ぷらす)

	事業名	期日	会場	備考(参加者等)
1	第5ブロック青年赤十字奉仕団連絡協議会代表者会議	6月14日 ～15日	日赤島根県支部 (松江市)	島根県担当にて開催 委員長、団員3名
2	第5ブロック青年赤十字奉仕団研修会	9月14日 ～15日	防府市地域協働支援センター (山口県)	団員1名

#### 2) 支部主催事業への参加・活動協力(島根大学学生赤十字奉仕団ぷらす)

	事業名	期日	会場	備考(参加者等)
1	SDGs エシカルマルシェ	8月3日	朱鷺会館 (出雲市)	団員3名
2	島根県青少年赤十字メンバーリーダーシップ・トレーニング・センター(小・中・高合同)	8月6日 ～8日	三瓶青少年交流の家 (大田市)	団員1名
3	島根県支部赤十字奉仕団委員長協議会	9月2日	日赤島根県支部 (松江市)	委員長
4	海外たすけあいオープニングセレモニー	12月1日	NHK松江放送局 (松江市)	委員長

### 3) 青年赤十字奉仕団主催の活動（島根大学学生赤十字奉仕団ぷらす）

	事業名	期日	会場	備考(参加者等)
1	新入生向けサークルイベント	4月	島根大学 (松江市)	委員長、団員
2	第75回凧風祭（島根大学大学祭）模擬店・展示	10月12日～13日	島根大学 (松江市)	委員長、団員
3	海外たすけあい 募金活動	11月28日	イオン菅田店 (松江市)	団員2名
4	定例会	月1回	島根大学 (松江市)	委員長、団員

### ②みずうみ赤十字奉仕団（松本淑子委員長：団員32名）

松江市の有志により昭和31年3月10日に設立され、地域に根ざした地道な活動を展開している。高齢者施設への訪問活動や青少年赤十字加盟校との交流活動を通し、入所者および青少年赤十字メンバーとの親睦を図っている。



#### 1) 主要実施活動

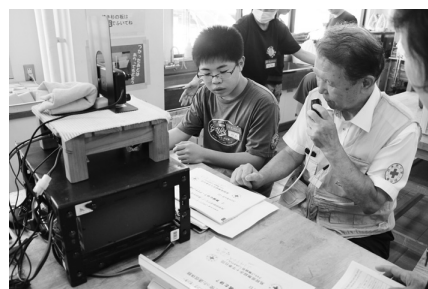
	事業名	期日	会場	参加者数	備考
1	役員会	4月25日	日赤島根県支部 (松江市)	5名	委員長、団員
2	全国赤十字大会	5月13日	明治神宮会館 (東京都)	2名	団員
3	総会	5月25日	日赤島根県支部 (松江市)	15名	委員長、団員14名 令和6年度事業報告及び決算報告 令和7年度事業計画及び予算
4	役員会	7月7日	日赤島根県支部 (松江市)	5名	委員長、団員
5	古布ふきんづくり・リラクゼーション	8月5日	日赤島根県支部 (松江市)	5名	団員
6	日赤島根県支部赤十字奉仕団委員長協議会	9月2日	日赤島根県支部 (松江市)	1名	委員長
7	役員会	10月22日	日赤島根県支部 (松江市)	5名	委員長、団員
8	戦争犠牲者慰霊塔清掃	11月3日	緑山公園 (松江市)	7名	委員長、団員
9	緑山公園慰霊式	11月19日	緑山公園 (松江市)	13名	委員長、団員
10	NHK歳末・海外たすけあい オープニングセレモニー	12月1日	NHK松江放送局 (松江市)	2名	団員
11	児童福祉施設支援金贈呈 団員に支援活動依頼 贈呈	1月14日	日赤島根県支部 (松江市)	7名	支部を通して県内13か所の児童福祉施設へ
12	古布ふきんづくり	1月26日	日赤島根県支部 (松江市)	7名	団員
13	施設訪問（古布ふきん持参）	1月27日	施設訪問	2名	団員
14	情報誌「ザレッドクロスみずうみ」 編集	3月3日	日赤島根県支部 (松江市)	4名	団員
15	情報誌「ザレッドクロスみずうみ」 編集	3月30日	日赤島根県支部 (松江市)	3名	団員
16	情報誌 ザレッドクロスみずうみ	3月末発刊	日赤島根県支部 (松江市)	4名	編集委員
17	乳児院ボランティア	第1, 2, 3日曜	松江赤十字乳児院 (松江市)		洗濯物整理・古布ふきん作り
18	赤十字会員加入・活動資金募集への 協力	-			全団員に呼びかけ（総会時）
19	特別義援金	随時	日赤島根県支部 (松江市)		各種災害義援金

#### 2) 赤十字活動資金（会費）への協力

令和7年度実績 41件 124,081円

③島根県無線赤十字奉仕団（金子由次委員長：団員12名）

アマチュア無線家で構成するこの奉仕団は、全団員が防災ボランティアリーダー・サブリーダーとなっており、防災ボランティア地区リーダー養成事業や各種防災訓練などの支部災害救護事業に参画している。また、全国の無線赤十字奉仕団との通信訓練を活発に行っている。



1) 主要実施活動

	活動・事業名	期 日	会 場	参加者
1. 会 議	島根県支部赤十字奉仕団委員長協議会	9月2日	日赤島根県支部 (島根県)	1名
2. 事 業 名	島根県青少年赤十字メンバーリーダーシップ・トレーニング・センター	8月7日	三瓶青少年交流の家 (大田市)	2名
3. 無線通信訓練	島根県無線赤十字奉仕団による野営非常通信訓練	3月21日 ～22日	きづき海浜公園 (出雲市)	5名
	全国のアマチュア無線赤十字奉仕団との通信訓練		21局	

2) 全国のアマチュア無線赤十字奉仕団との通信訓練

	無線通信訓練名	訓練日	通信相手（依頼支部 所属奉仕団）	
1	岐阜日赤アマチュア無線奉仕団による通信訓練	4月13日	JA2YJZ	岐阜日赤アマチュア無線奉仕団
2	兵庫県無線赤十字奉仕団による全国無線通信訓練	4月20日	JH3YTR	兵庫県無線赤十字奉仕団
3	「熊本地震の日」における災害非常通信訓練	4月20日	JA6ZJY ほか	熊本県無線赤十字奉仕団
4	「山口県総合防災訓練」に伴う全国無線通信訓練	5月25日	JA4YGI	山口県赤十字アマチュア無線奉仕団
5	鹿児島県総合防災訓練における非常通信訓練	5月25日	JA6YPB JH6YMX	鹿児島県アマチュア無線クラブ 鹿児島県赤十字アマ無線奉仕団
6	日赤第4B合同災害救助訓練における大阪赤十字機動救助奉仕団による非常通信訓練	6月7日	JA3YDO	大阪赤十字機動救助奉仕団
7	北海道無線赤十字奉仕団協議会による無線通信訓練	7月19日	JA8ZFT	北海道無線赤十字奉仕団協議会
8	栃木県赤十字アマチュア無線奉仕団による非常通信訓練	7月27日	JH1TSQ	栃木県赤十字アマチュア無線奉仕団
9	栃木県・宇都宮市総合防災訓練における日赤栃木県支部アマチュア無線奉仕団による非常通信訓練	8月31日	JH1YSQ	日赤栃木県支部アマチュア無線奉仕団
10	山梨県無線赤十字奉仕団による非常無線通信訓練	10月29日	JR1YBL	山梨県無線赤十字奉仕団
11	和歌山県赤十字特別救護奉仕団（無線奉仕団）による全国無線通信訓練	11月2日	JA3YQJ	和歌山県赤十字特別救護隊附設無線クラブ
12	宮城県石巻市総合防災訓練に伴う全国無線通信訓練	11月9日	JE7YVD JE7YDR	石巻市地区無線クラブ赤十字奉仕団 東松島市アマチュア無線クラブ
13	東京都特殊救護赤十字奉仕団主催アマチュア無線全国無線通信訓練	11月16日	JH1ZNX	東京都特殊救護赤十字奉仕団
14	宮崎県アマチュア無線赤十字奉仕団による全国無線通信訓練(1)	11月16日	JA6YRG	宮崎県アマチュア無線赤十字奉仕団
15	愛知県赤十字無線奉仕団による無線通信訓練	12月21日	JH2YWN	愛知県赤十字無線奉仕団
16	宮崎県アマチュア無線赤十字奉仕団による全国無線通信訓練(2)	12月21日	JA6YRG	宮崎県アマチュア無線赤十字奉仕団
17	桜島爆発総合防災訓練に合わせた非常無線通信訓練	1月10日	JA6YPB	鹿児島県アマチュア無線クラブ
18	兵庫県無線赤十字奉仕団による全国非常通信訓練	1月17日	JH3YTR	兵庫県無線赤十字奉仕団
19	大阪赤十字機動救助奉仕団による通信訓練	2月15日	JA3YDO	大阪赤十字機動救助奉仕団
20	日赤茨城県支部アマチュア無線奉仕団による非常無線通信訓練	2月22日	JH1YIB	日赤茨城県支部アマチュア無線奉仕団
21	山梨県無線赤十字奉仕団による非常無線通信訓練	3月24日	JR1YBL	山梨県無線赤十字奉仕団

④島根県青少年赤十字賛助奉仕団（広原啓視委員長：団員28名）

島根県青少年赤十字指導者協議会の役員であった者、青少年赤十字に深い理解と認識をもつ者がこれまで培った経験や知識を活かして青少年赤十字の普及・啓発支援を行うため、平成16年5月15日に設立。学校での活動や校長会などでの普及・啓発活動のほか、会議や研修等を通じて全国や第5ブロックの賛助奉仕団と連携を深め活動を展開している。



1) 主要実施活動

	事業名	期日	会場	備考(参加者等)
1	役員会	4月3日	日赤島根県支部 (松江市)	委員長、役員6名 総会および研修会について
2	加盟登録式	4月23日	安来市立伯太中学校 (安来市)	支部指導講師1名派遣 青少年赤十字について
3	加盟登録式	4月25日	安来市立第三中学校 (安来市)	支部指導講師1名派遣 青少年赤十字について
4	総会・研修会	5月18日	日赤島根県支部 (松江市)	委員長、団員10名 研修会:リラクゼーションについて
5	島根県青少年赤十字指導者協議会 役員会・総会	6月11日	ホテル白鳥 (松江市)	委員長
6	加盟登録式	7月3日	安来市立第一中学校 (安来市)	支部指導講師1名派遣 青少年赤十字について
7	全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会 役員会・総会	7月7日 ～9日	日本赤十字社 (東京都)	委員長、顧問(全国役員)
8	島根県青少年赤十字メンバーリーダー シップ・トレーニング・センター (小・中・高合同)	8月6日 ～8日	三瓶青少年交流の家 (大田市)	委員長、団員1名
9	役員会	9月1日	日赤島根県支部 (松江市)	委員長、役員6名
10	島根県支部赤十字奉仕団委員長協議会	9月2日	日赤島根県支部 (松江市)	委員長
11	「いとすぎしまね」編集会議	10月28日	日赤島根県支部 (松江市)	委員長、団員5名
12	秋季研修会	11月2日	日赤島根県支部 (松江市)	講演「島根の子ども達には島根の平和学習を」 講師、委員長、団員14名
13	第5ブロック青少年赤十字賛助奉仕団 連絡協議会・研修会	11月13日 ～14日	日赤高知県支部 (高知県)	委員長、顧問
14	島根県青少年赤十字指導者講習会 事前協議	12月10日	日赤島根県支部 (松江市)	委員長、幹事長、顧問
15	児童福祉施設支援金	12月	日赤島根県支部 (松江市)	支部を通して県内13か所の児童福祉施設へ
16	「いとすぎしまね」編集会議	1月19日	日赤島根県支部 (松江市)	委員長、団員5名
17	島根県青少年赤十字指導者講習会 事前協議	1月29日	日赤島根県支部 (松江市)	委員長、幹事長
18	島根県青少年赤十字指導者講習会	2月10日	サンラポーむらくも (松江市)	委員長、幹事長(講師として参加) ほか団員2名
19	全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会 第2回役員会	3月10日 ～11日	日本赤十字社 (東京都)	顧問(全国役員)
20	役員会、「いとすぎしまね」編集 会議	3月31日	日赤島根県支部 (松江市)	委員長、役員6名
21	特別義援金	随時	日赤島根県支部 (松江市)	各種災害義援金

⑤島根理容赤十字奉仕団(福代一成委員長：団員217名)

令和7年度活動記録：24施設と在宅家庭において、延べ215人の奉仕団員が、延べ277回16,211人に対して理容奉仕活動を実施した。

⑥松江邦楽赤十字奉仕団（富芭紫清宗委員長：団員435名）

尺八、琴、三味線、日本舞踊の関係者により昭和31年8月4日に設立され、発表会の集積等を義援金・救援金に寄託している。

### (3) 赤十字奉仕団支部指導講師

赤十字奉仕団支部指導講師は、日本赤十字社島根県支部が行う各奉仕団研修会やJRCメンバー・指導者協議会等において、講演や研修指導等の活動を行っている。当支部には12名の指導講師が在籍している。

## 6. 医療事業・社会福祉事業

### (1) 松江赤十字病院

松江赤十字病院は、日本赤十字社の全国91病院の一つで、昭和11年4月県立松江病院の廃止移管を受け、日本赤十字社松江支部病院として創設し、昭和18年1月に松江赤十字病院と名称変更し今日に至っている。

80有余年の長い歴史の中で、社会情勢の変化に応じた医療需要に対応し、高度・良質な医療の提供を行う県東部の中核病院として常に主要な役割を果たしてきた。

国の進めている病病・病診連携を実現すべく当院の役割分担を明瞭化し、松江医療圏域あるいは島根県全体の急性期医療を中心的に担い、高度な医療を提供する施設として期待される場所である。

そうした高度医療提供の期待に応えるべく、平成16年4月には、救命救急センターを開設、平成17年1月には地域がん診療拠点病院の指定を受け、さらに平成19年2月には県内3番目に「地域医療支援病院」の承認を得るとともに同年4月には「がん相談支援センター」を開設するなど引き続き地域における中核病院としての役割を果たすこととしている。

また、当院は赤十字病院としてDMATや救護班要員を備え、大規模災害発生時には被災地の医療支援も使命の一つである。平成23年の東日本大震災や平成28年熊本地震、令和6年能登半島地震にはDMAT、救護班などを現地に派遣し医療支援を行った。

病院建設については、建物・機器の老朽化や耐震などの災害対応、療養環境の改善等のため約172億円の予算で平成19年2月に全面改築に着手した。病棟・検査部門・給食部門等からなる高層館は平成21年12月に、外来部門・管理部門等からなる本館は平成24年4月に竣工となり、その後外構工事・公開空地の整備を行い、平成25年4月に事業を完了している。

また、平成24年度より本院機能の補完、慢性的な外来駐車場不足解消を目的とし、別館関係工事に着手し、平成25年2月に別館1、別館2、保育所を、平成25年10月には旧看護学校解体跡に駐車場（102台）を設置した。平成26年3月には一連工事の終了をもって新築工事竣工記念式典を挙行了した。

平成29年3月にはハイブリッド手術室、令和6年12月には、ロボット手術を導入し医療の質を高める取り組みを継続的に行った。

地域の医療機関等との連携強化と機能分担の推進にも努めており、令和3年12月には松江市立病院と連携と協力に係る基本協定を締結し、更に令和6年12月には、松江圏域10病院における医療医機能連携協定を締結した。また令和7年7月には松江医療圏で初めての導入となるドクターカーの運用を開始した。

#### ア. 病院の現況

##### ①敷地・建物（病院部分）

敷地	9,250.10㎡
本館	地上6階建 10,175.62㎡
高層館	地上14階建地下1階 31,293.37㎡
合計	41,468.99㎡

##### ②病床数

599床（一般病床552床、精神45床、感染2床）



③診療科目（27科）

内科、精神神経科、神経内科、呼吸器内科、糖尿病・内分泌内科、血液内科、膠原病・腎臓内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺外科、皮膚科、泌尿器・副腎外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科、病理診断科

④職員数

1,192人（医師148人、看護師617人 他 ※令和8年3月31日現在）

⑤特殊施設

人工透析センター、ICU、CCU、NICU、GCUなど

⑥その他

地域医療支援病院、臨床研修指定病院、第二次医療圏災害拠点病院、エイズ拠点病院、脳死者からの臓器移植提供施設、地域がん診療拠点病院、地域周産期母子医療センター、救命救急センター など

イ．診療状況の概況

○患者数（令和7年度）

外来患者延数 183,932人（一日平均 763人）

入院患者延数 169,049人（一日平均 463人）

## (2) 益田赤十字病院

昭和29年4月1日、当時益田市外11町村組合立美濃共存病院を日本赤十字社が引き受け、益田赤十字病院と改称して発足した。

その後、地域医療に対応するため、昭和32年に増改築、昭和46年に新築移転を行い、現在では、県西部における中核病院として、第二次救急指定病院、エイズ拠点病院、災害拠点病院、第二種感染症医療機関、地域がん診療連携推進病院、地域周産指定され、その役割を果たすべく施設、設備の整備・診療体制の強化・地域住民の健康維持並びに福祉の充実・向上に努めている。



また、赤十字病院としてDMATや救護班要員を備え、災害発生時には被災地の医療支援を行っている。今年度も災害時の医療体制構築、関係機関との連携を図るため院内訓練、BCP研修を行った。

平成28年1月に新病院が開院、平成30年1月、地域包括ケアシステムを推進するため入退院センターを設置、また、平成30年3月には地域により信頼される病院を目指し、日本医療機能評価機構病院機能評価 一般病院2 (3rdG: Ver. 2.0) の認定を受けた。

近年では、医療資源の少ない益田圏域において、限られた医療資源を有効活用し、医療機関の相互協力、研修医受入れ体制の充実、医療機能の維持・充実を図るため、津和野共存病院・よしか病院・益田地域医療センター医師会病院・松ヶ丘病院と医療機能連携協定を締結している。また、令和元年5月には自治体である津和野町、令和5年3月には吉賀町と、地域包括ケアシステムの推進、地域医療を担う医療人材の育成を目的とした医療機能連携支援協定を締結した。

### ア. 病院の現況

#### ①敷地・建物（病院部分）

敷地	26,325㎡
建物 地上6階建	20,400㎡
合計	46,725㎡

#### ②病床数

284床（一般病床272床、結核4床、感染4床、HCU4床）

#### ③診療科目（23科）

内科、呼吸器内科、消化器内科、血液内科、内分泌・代謝内科、膠原病リウマチ内科、脳神経内科、循環器科、小児科、外科、消化器外科、脳神経外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、耳鼻いんこう科、眼科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科、救急科、病理診断科

#### ④職員数

600人（医師60人、看護師272人 他 ※令和8年3月31日現在）

#### ⑤特殊施設

HCU、NICU、外来化学療法室、血液浄化センター

#### ⑥その他

臨床研修指定病院

## イ. 診療状況の概況

### ○患者数（令和7年度）

外来患者延数 148,298人（一日平均 615人）

入院患者延数 86,922人（一日平均 238人）

### （3）隠岐島前地区巡回診療

昭和7年に支部巡回診療所設置に当たり、「日本赤十字社島根県支部巡回診療班規定」及び「施行細則」が定められ、県内各地における巡回診療が開始された。現在は、隠岐島前地区のみを対象として、町村分区の要請により赤十字病院から医師、看護師等を派遣し、無料の巡回診療を実施することとしている。 ※令和7年度 実施なし

## 7. 血液事業

### (1) 島根県赤十字血液センター

昭和40年2月1日松江赤十字病院分病棟内に移動採血車が配備され、全県で移動採血による200mL献血と、医療機関への血液供給業務を開始した。

その後、昭和41年1月に、松江赤十字病院本院構内で事業を開始し、昭和55年9月には同病院の新館建設に併せ、併設社屋が完成した。

昭和61年4月から、新たに400mL献血、成分献血がスタートしたが、新しい血液事業に対応するため、平成2年3月に、松江市大輪町の県有地に新社屋を建設し現在に至る。

一方、県西部の採血拠点として、昭和41年8月、益田赤十字病院内に益田出張所を開設し、県西部の移動採血を開始した。平成5年同病院の増改築に伴い同病院敷地内に新社屋を建設した。

また、平成22年5月には、出雲市に献血ルーム「ふれあい」を開設した。

輸血用血液の安全性を強化する取り組みとして、平成7年7月から全国統一システムが導入され、平成11年6月からは全国の献血場所で、安全性にかかわる情報や今までの献血状況が参照できるようになり、現在では血液事業情報システムとして、経理・用度機能、献血・採血管理機能、製造管理機能、販売管理機能、情報統計機能が稼働している。

平成11年10月からのNAT（核酸増幅検査）の導入、平成15年7月30日には血液製剤の安全性の向上、安定供給の確保及び適正な使用の推進のために「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」が施行された。

平成16年10月より検査目的の献血等を防止するために献血受付時の本人確認、感染症の遡及調査を見直し、平成17年7月より安全対策として新鮮凍結血漿製剤の180日間貯留保管、保存前白血球除去を開始し安全な血液確保に努めている。また、採血による献血者等の健康が害された場合の措置として平成18年10月1日から「献血者健康被害救済制度」が導入された。

平成19年4月、輸血用血液の安全性確保と効率的な事業運営を行うために島根県赤十字血液センターで実施していた検査業務を、また平成20年3月28日からは製剤業務を広島県赤十字血液センターへ集約した。

平成23年4月、それまでの血液製剤の供給業務の外部委託を廃止し、血液センターからの供給を開始した。同年10月には西部地区の供給業務拠点として浜田市に供給出張所を開設した。

平成24年4月、都道府県単位で行っていた事業を、全国に7つの本社直轄施設を設置して事業を実施するため、広島市に中四国ブロック血液センターが設置され検査・製造、需給管理等をブロック単位で集約、安全で均質な血液製剤を安定的に供給する広域的な事業運営体制が開始された。

県内における効率的な事業運営を考慮した結果、平成26年8月31日には出雲市の献血ルーム「ふれあい」業務を、平成30年3月31日に益田市の益田出張所業務を松江市の島根県赤十字血液センターへ集約した。

平成26年3月より島根県赤十字血液センターの愛称を献血ルーム「だんだん」とし、県内唯一の常設献血ルームとして広く県民の皆様へ献血の協力を呼びかけるとともに、平成28年度からは複数回献血クラブ会員サイトを一新し、全国共通のポイント制度を導入するなど、より一層サービスの充実を図った。

また、新たに分割血小板成分献血の導入などの取り組みを行い、必要な血液量を効率的かつ安定的に確保するよう努めた。



#### ア. 令和7年度採血計画及び実績

- ①採血目標数 21,358人
- ②献血実績数 20,965人

## 1) 月別献血状況

(単位：人)

区分	月												計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
献血ルーム(松江)	780	764	807	841	932	795	805	892	875	765	757	811	9,824
移動採血車	1,031	915	858	829	992	860	975	938	1,033	978	789	943	11,141
計(人)	1,811	1,679	1,665	1,670	1,924	1,655	1,780	1,830	1,908	1,743	1,546	1,754	20,965

## 2) 市町村別献血状況

(単位：人)

市町村	献血者数		
	200ml	400ml	成分
松江市	0	3,343	0
浜田市	0	681	0
出雲市	0	4,035	0
益田市	0	575	0
大田市	0	452	0
安来市	0	433	0
江津市	0	410	0
雲南市	0	454	0
奥出雲市	0	178	0
飯南町	0	178	0
川本町	0	68	0
美郷町	0	52	0
邑南町	0	216	0
津和野町	0	33	0
吉賀町	0	33	0
隠岐の島町	0	0	0
海士町	0	0	0
西ノ島町	0	0	0
知夫村	0	0	0
母体(松江)	63	2,557	7,204
小計	63	13,698	7,204
合計			20,965

## イ. 血液製剤の供給

輸血療法は、適正に行われた場合には極めて有効性が高いことから、広く行われている治療法である。そのため、血液製剤は医療上不可欠のものとされ、他の医薬品と同様、医療需要を満たすための安定供給が求められている。

血液センターでは、輸血を必要とされる患者様に確実、迅速に血液をお届けできるよう供給本数を予測し、それに基づいた採血を行い、日々の在庫管理とWeb発注システムを使用した発注を推進し医療機関から確実迅速に血液製剤の発注をしていただけるように努めている。

また、原材料に由来する感染のリスク等について特段の注意を払う必要があることや、献血者の方からの善意によりいただいた血液であることを十分に認識する必要があることから、医療機関へは「輸血療法の実施に関する指針」に基づき、血液製剤の適正使用をお願いするとともに、血液製剤の安全性に関する情報の収集及び提供を行っている。

○血液製剤供給数

製剤品名		単位数	比率	製剤品名		単位数	比率
照射人全血液-LR	200ml	0	0.00	濃厚血小板HLA-LR	成分由来10単位	0	0.00
	400ml	0	0.00		成分由来15単位	0	0.00
照射解凍赤血球-LR	200ml	0	0.00		成分由来20単位	0	0.00
	400ml	0	0.00	照射濃厚血小板HLA-LR	成分由来10単位	260	0.35
赤血球液-LR	200ml	0	0.00		成分由来15単位	0	0.00
	400ml	8	0.01	成分由来20単位	0	0.00	
照射赤血球液-LR	200ml	32	0.04	照射洗浄血小板-LR	成分由来10単位	310	0.41
	400ml	23,394	31.18	照射洗浄血小板HLA-LR	成分由来10単位	0	0.00
洗浄赤血球-LR	200ml	0	0.00	濃厚血小板-LRBS	成分由来1単位	0	0.00
	400ml	0	0.00		成分由来2単位	0	0.00
照射洗浄赤血球-LR	200ml	0	0.00		成分由来5単位	0	0.00
	400ml	10	0.01		成分由来10単位	0	0.00
照射合成血-LR	200ml	0	0.00		成分由来15単位	0	0.00
	400ml	0	0.00	成分由来20単位	0	0.00	
新鮮凍結血漿-LR	200ml	0	0.00	照射濃厚血小板-LRBS	成分由来1単位	0	0.00
	400ml	5,976	7.97		成分由来2単位	0	0.00
	成分由来5単位	1,148	1.53		成分由来5単位	15	0.02
濃厚血小板-LR	成分由来1単位	0	0.00		成分由来10単位	29,840	39.77
	成分由来2単位	0	0.00		成分由来15単位	0	0.00
	成分由来5単位	0	0.00	成分由来20単位	0	0.00	
	成分由来10単位	0	0.00	濃厚血小板HLA-LRBS	成分由来10単位	0	0.00
	成分由来15単位	0	0.00		成分由来15単位	0	0.00
	成分由来20単位	0	0.00		成分由来20単位	0	0.00
照射濃厚血小板-LR	成分由来1単位	0	0.00	照射濃厚血小板HLA-LRBS	成分由来10単位	50	0.07
	成分由来2単位	0	0.00		成分由来15単位	0	0.00
	成分由来5単位	5	0.01		成分由来20単位	0	0.00
	成分由来10単位	12,820	17.09	照射洗浄血小板-LRBS	成分由来10単位	1,160	1.55
	成分由来15単位	0	0.00	照射洗浄血小板HLA-LRBS	成分由来10単位	0	0.00
	成分由来20単位	0	0.00	合計		75,028	100.00

(2) 献血運動の推進

日本赤十字社では、昭和40年以来、毎年7月に「愛の血液助け合い運動」を厚生労働省、各都道府県と共催で実施している。また、昭和49年以来、民放連の協力を得て実施している「はたちの献血キャンペーン」を1月～2月の2ヶ月間実施している。

令和7年度においては、献血啓発事業として「THINK!献血」プロジェクトを1年間実施している。

ア. 愛の血液助け合い運動〔実施期間：令和7年7月1日～7月31日〕

本年の献血キャンペーンは、厚生労働省、都道府県、日本医師会など、数多くの関係団体や機関の後援のもとに、広く国民各層に対し、献血への理解と協力を呼びかけた。夏場は特に、企業、団体、学校などが長期休暇に入り、献血者が少なくなりがちなため輸血用血液の安定的確保を図っていくための広域的な運動を展開した。

イ. はたちの献血キャンペーン〔実施期間：令和8年1月1日～2月28日〕

献血者が減少傾向にある冬期において、安全な血液製剤の安定供給の確保を図るため、「はたち」の若者を中心に、献血に関する理解と協力をお願いした。大学、高校等にポスターを掲示し若い年齢層へのPR活動を実施した。

ウ. 「THINK！献血」プロジェクト〔実施期間：令和7年6月9日～令和8年4月30日〕

将来にわたり持続可能な献血基盤を構築することを前提として、献血を国民運動として広く周知し、減少傾向である若年層（10～30代）献血者がより自然に献血参加に移行できる風土の醸成とともに、40～60代の各年代に対しても今まで以上に献血運動に賛同いただけるような方策を実施した。

## 8. 社会福祉事業

### (1) 松江赤十字乳児院

松江赤十字乳児院は、昭和24年に松江市立乳児院として創設され、松江赤十字病院が運営にあたっていた。昭和32年、設置主体が松江市から日本赤十字社に移管され、施設名も松江赤十字乳児院となり、県内唯一の乳児院としてその責務を果たしてきた。

院内全てにおいて、少ない人数単位で家庭的養育を行う小規模グループ（5つ）を基本にして、より家庭に近い養育に取り組んでいる。

また、令和7年4月より、里親支援センター「里親家庭サポートセンターてのひら」を開設し、運用を開始した。



○令和7年度の施設利用者数（延）

項目	利用者数(人)
乳児院延入所児数	7,770
育児サロン利用者数	4,278
病児保育利用者数	429

### (2) 県内児童福祉施設への援護（『児童福祉施設支援金』の贈呈）

県内の児童福祉施設に入所している子どもたちのために、青少年赤十字メンバー、赤十字奉仕団員等からの支援金の寄託を受け、県内13の児童福祉施設へ贈呈した。本義援金募集は、昭和38年度に「年末義援金」と称して開始し、本年度で63回目となる。

ア. 受付額 440,898円（53件）

イ. 贈呈額 440,898円 ※配分内訳は以下のとおり

施設種類別	施設名	配分額(円)
乳児院	松江赤十字乳児院	44,671
児童養護施設	社会福祉法人双樹学院 双樹学院	66,032
	社会福祉法人せんだん会 安来学園	58,265
	社会福祉法人三隅愛育会 聖煌寮	40,787
児童心理治療施設	社会福祉法人親和会 児童心理療育センターみらい	27,193
児童自立支援施設	島根県立わかたけ学園	27,193
福祉型障害児入所施設	社会福祉法人山陰家庭学院 松江学園	31,077
	社会福祉法人親和会 さざなみ学園	50,497
	社会福祉法人邑智福祉振興会 くるみ邑美園児童部	11,657
	社会福祉法人いわみ福祉会 こくぶ学園	42,729
	社会福祉法人博愛 仁万の里児童部	7,773
医療型障害児入所施設	社会福祉法人島根整肢学園 松江整肢学園	17,483
	社会福祉法人島根整肢学園 島根整肢学園	15,541
合計		440,898

## 9. 国際活動

現在、世界における赤十字・赤新月社数は191社（一国一社の原則）である。日本赤十字社はその一員として赤十字国際委員会、国際赤十字・赤新月社連盟、各国の赤十字（赤新月）社と連携し、国際援助・協力を行っている。

当支部においても緊急援助と開発援助のいずれにおいても積極的に推進している。



参考：ジュネーブ4条約締約国 196カ国

日本政府が承認している独立国家数 196カ国

国連加盟国数 193カ国

### （1）海外救援金の取扱い

紛争、風水害、干ばつ等による被災住民や難民への救援活動については、国際赤十字・赤新月社連盟を中心に一層の努力を傾注して救援活動を展開している。

日本赤十字社でも救援グループの有力なメンバーとして、人的、物的ニーズに応じた救援を行っている。当支部においては、救援金の受付を行い、本社を通じて送金している。

○海外救援金の取扱い（集計期間：令和7年4月1日～令和8年3月31日）

No.	受付項目	件数(件)	金額(円)
1	中東人道危機救援金	16	90,801
2	バングラデシュ南部避難民救援金	5	9,589
3	ウクライナ人道危機救援金	15	160,568
4	2025年ミャンマー地震救援金	25	269,566
5	2025年アフガニスタン地震救援金	1	1,098
6	2025年パキスタン洪水救援金	7	7,756
7	通年（無指定海外救援金）	2	9,000
合計		71	548,378

### （2）中四国（第5ブロック）各県支部共同国際救援事業

中四国各県支部が共同して資金を拠出し、アジア・大洋州地域の洪水やサイクロンなどの災害に見舞われる国や地域に対して「給水・衛生災害対応キット」資機材の備蓄を継続して支援している。

なお、本年度の拠出額は次のとおり。

令和7年度事業費総額 7,000,000円

（内、島根県支部拠出額 706,096円）



### (3) 第43回 NHK海外たすけあいキャンペーン

日本赤十字社の行う国際活動（緊急援助、開発協力）は、本キャンペーンによる救援金等を財源として実施されている。

当支部においては、NHK松江放送局をはじめ、山陰合同銀行、島根県農業協同組合、島根県信用漁協連等の協力のもと、下記のとおり救援金の募集及び受付を行った。



ア. 実施期間 令和7年12月1日～25日

イ. 取扱状況（令和8年3月31日現在）

受付場所	件数(件)	金額(円)
日本赤十字社島根県支部	618	239,701
NHK松江放送局	33	564,075
金融機関（山陰合同銀行・県農業協同組合・県信用漁協連分）	55	636,007
郵便振替（日本赤十字社 ※本社取扱分）	195	2,570,519
合計	901	4,010,302

### (4) 国際人道法セミナーの開催

実施日	施設	研修名	受講者数(人)
4月3日	松江赤十字病院	新規採用職員研修	64
5月9日	益田赤十字病院	新規採用職員研修	27
9月6日	松江赤十字病院	災害看護論・災害救護研修	48
10月30日	益田赤十字病院	災害看護論・災害救護研修	9

# 赤 十 字 施 設

## **日本赤十字社島根県支部**

松江市内中原町40 TEL：0852(21)4237 FAX：0852(31)2411

URL <http://www.jrc.or.jp/chapter/shimane/>

## **松江赤十字病院**

松江市母衣町200 TEL：0852(24)2111 FAX：0852(21)6469

URL <http://www.matsue.jrc.or.jp/>

## **益田赤十字病院**

益田市乙吉町イ103-1 TEL：0856(22)1480 FAX：0856(22)3991

URL <http://www.masuda.jrc.or.jp/>

## **島根県赤十字血液センター**

松江市大輪町420-21 TEL：0852(23)9467 FAX：0852(27)8303

URL <http://www.bc.jrc.or.jp/csk/shimane/index.html>

## **松江赤十字乳児院**

松江市南田町162 TEL：0852(24)6417 FAX：0852(24)6417

URL <http://www.mable.ne.jp/~mrc-nyuji-in/>